

<b>第18回 第1分科会会議録（概要）</b>		場 所	新宿区役所第一分庁舎7階 研修室
日 時	平成18年3月1日（水） 午後1時30分～午後3時30分	記録者	【学生補助員】 田多井さやか 古谷聡子
		責任者	区事務局（菊地、並木）
<p>会議出席者：20名 （学識委員：1名 区民委員：14名 区職員：5名）</p>			
<p>■配布資料</p> <p>① 第18回次第 ② 第17回会議録 ③ 新宿区民会議 中間発表会 ご意見カード集計表 ④ 今後の方針 意見・提案カード ⑤ 中間発表会レポートでの不足項目 ⑥ 第1分科会 6月提言までのスケジュール（案） ⑦ 中間発表会 パワーポイントの写し</p> <p>■進行内容</p> <p>1. 本日の進め方について 2. 中間発表会についての感想・・・学識委員 3. 中間発表会でいただいた意見について 4. 今後の進め方 5. 中間発表会のレポートから不足している点の抽出 6. その他（事務局）</p> <p>■会議内容</p> <p>【発言者】●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員</p> <p>1. 本日の進め方について</p> <p>●（司会 リーダー）</p> <p>それでは、始めさせていただきます。本日はまず、中間発表会についての感想を学識委員からいただきまして、次に、発表会で他の分科会委員等からいただいた意見をまとめた資料をお配りしましたので、検証していきたいと思います。そして、それを受けて今後の分科会の進め方を話し合っていきたいと思います。今後の進め方にも関係してくると思いますが、中間発表会の限定された枚数のレポートと発表時間の中で、落としてしまった課題もあったと思います。その辺を話し合っ、十分に6月の提言に盛り込めるように、その場限りのものにしないように、皆さんのお知恵を拝借したいと思います。</p> <p>配布資料ですが、②第17回会議録と③新宿区民会議中間発表会意見・提案カード集計表、④第1分科会今後の方針意見・提案カード、⑤中間発表会レポートでの不足項目があります。こちらはあとで皆さんとも話し合っ、6月まであまり時間も残されてない中</p>			

で、更に落ちている検討項目を加えて、ある程度の方向性をつけていきたいと思います。また、⑥第1分科会6月提言までのスケジュールを整理した資料があります。本日3月1日を含めまして、提言があります6月まで、現実的に話し合いをする機会というのがあと6回程度しかありません。そうしたことを考えてのスケジュール(案)ですので、足りないところがあれば、分科会の日以外に意見集約を図るような場を設けていきたいと思っています。最後に、⑦中間発表会のパワーポイントの写しがありますので、見て下さい。

それではまず、学識の杉山委員から中間発表会の感想を講評も含めてお願いします。

◎(杉山)

この前の中間報告会は、やっぱり第1分科会が一番良かったと、私が第1分科会の担当だから思うのかもかもしれませんが、良い発表だなあと思いながら聞かせていただきました。プレゼンテーションとしてすごく分かりやすかったと思います。ちょっとトラブルもあったけれども、へこたれずに発表をなさっていたのも良かったなあと思いました。汐見委員とも話しましたが、資料にあるような感想等を拝見させていただいても、やはり分かりやすかったし、訴えるものがあつたと概ね好評だったと聞いて、良かったと思いました。こういうことは、とても大事なことで、今までディスカッションを重ねて、それを外に出すという作業をすることで、皆さんのものになるということだろうと思います。とりあえず、そのプロセスを踏んで、次に行こうという段階なのかと思っています。今後の進め方も含めて、足りない検討課題はなんであつたのかを出しましょうという意見が出ています。それに対する補足の議論も必要で、かつ、もう一回一からやり直すというのではなく、今までつくったものにどうプラスしていくかということをしなないと時間がないだろうと思っています。例えば、配布資料のパワーポイントを見ていると、具体的にこれをしたらどうかという項目がいくつか出ています。例えば、おせっかい本の作成、母と子の保健バック、ワークショップ、スクールコーディネーターの充実、そうした項目をなくしてしまうのではなく、具体的にどうやって実施していこうというような突っ込んだ話をしていくことが、より形になりやすいのではないかと。抽象論にならなくて済むのではないかと気がします。これを母体に、次に進むという考えをとっていただけたらと思っています。それがここにある議論をどんどん膨らませていって内容を深めるということなのです。その一方で、他の分科会の発表もお聞きになられたと思うのですが、それをどう全体として融合させて新宿区というものをつくっていこうかという発想も必要です。また、第1分科会の区民としてではなく、一般の区民として聞いたときにこうしてほしいという意見もあるでしょうし、一方で、第1分科会で、子ども・子育てを実際に行っている委員としては、ここにもうちょっと子どもの目線を入れてほしいという、二つのアプローチというか、取り組みがあろうかと思っています。個別に区民として感じたことだったら、直接、他の分科会に意見していただければ結構ですし、子どもの目線ということで意見をするのであれば、第1分科会で集約して各分科会にアプローチしていくということも必要だろうと思います。こうした組み立てはリーダーを

中心に考えてくださると思うのですが、とにかく時間がないので、委員全員でつくり上げていくという意識がブレないようにしながら検討することが大切と思っています。

●（司会 リーダー）

どうもありがとうございました。次に、中間発表会のときに他の分科会委員等からいただいた意見・提案を、資料で見たいと思います。とてもよく学習されていてよい発表でしたというような、褒めていただいた話は別にしましても、様々な改善点が指摘されております。（資料③：ご意見カード集計表1Pの3～7参照）

それから、第1分科会だけに向けての意見・提案ではなく、全体に対するご意見もいただきました。（資料③：ご意見カード集計表（分科会全体に関する意見）参照）

次に、第2部区民交流会の第1分科会意見・提案カード集計表では、いろいろな形でのテーマが出ております。全体としては第1分科会で、議論を進めてきたところかと思えますけれども、中間発表会では細かく発表できませんでしたので、やはりここに挙げられた意見等を持っている方が多数いらっしゃることを頭に置いておいたほうがいいと思います。（資料③：ご意見カード集計表2P参照）

第2部に参加していただいた委員は、その際にも意見を出していただいたと思います。改めて今後の進め方も含めて一人ひとり、思っていることを2、3分で意見を出していただけるとありがたいと思います。順番をお願いします。

●

私は発表も原稿づくりもさせていただいたので、自分の言いたいところは言えたという気がするのですが、なかなか全員の言いたかったことを入れることはできなかったと思うので、最終的にはきちんと入れていきたいと思います。それから、区がやらなくてはならない施策と区民が半分やらなければならない施策があると思いますので、整理していきたいと思いました。

●（司会 リーダー）

どうもありがとうございました。発表の方もご苦労様でした。今出ましたように、中間発表会のワーキンググループで計画を立てたのですが、資料の量も少ないですし、発表もたったの20分間ということで、今までいろいろ議論してきた項目の全てが発表できたということではなかったと考えます。先ほどの他の分科会委員からのご意見を見ても、発表されたところについて問題はなかったと個人的には認識しておりますが、これから6月の提言に向けて、その落ちた項目を提言に向けて考えていきたいと思います。

では次の委員をお願いします。

●

私はベースのところをもう一回確認したいと思います。いわゆる「協働」というところを、もう一回みんなで勉強したいと思うのです。例えば、山梨大学の江藤先生の意見を引用しますが、「ひとつは住民主導に転換することが新しい関係だと言いますが、果たして住民は公共に対して常に善であるか？今まで行政は善であり全てを決定してしまし

た。ところが最近それではダメで、住民が積極的に行政に関わらなければならないということも言われますし、私も分かりやすく言うときは、そのような言い方をします。しかし住民が常に公共善というか、公共のことを考えている、純真無垢な存在ということをもう少し考えていただきたいと思います。ということで、結論から言えば、私は住民は素晴らしい、住民は天才的な知性を潜在的に持っている。その反面感情に流されやすい、あるいは視野の限界があると思います。それを解決する手立て・方法が、住民と住民が関係を提示すること、つまり行政というものが住民に対する環境を育てることが大切です。」というようなものです。やはり私は区民会議での議論を、住民の側が公共性とは何かとか、私たちが新宿区を広い視野で見れば考えなければダメなことは一体なんなのかというような視野に立って発言することが、地域の協働の本来の成果であって、いわゆる自治体への陳情ではなく、行政と協働していくことがひとつのポイントだと思います。ここについては、今は断片的なものですが、協働とはなんなのかということ、住民の側からもう一回考えたいと思っています。

もうひとつ、これは個人的な意見ですが、行政の側にもお願いがあります。今までの会議は私たち区民と行政の間に完全に線が引かれています、やはり行政の側からご覧になっていると、あまりにもこの議論は稚拙だとか、あるいは行政はもうこう考えていますよとか、言いたいことは山ほどあると思うのです。その辺をもう少し議論の中に行政の方から反映してきてほしいと思います。例えば子育てのグループだったら、関原主査に入ってくださいとか、小学生のグループでは鯨井係長に入ってくださいという形で、できれば分科会の中でお互いに議論していったほうが良いのではないかと考えています。そうしないと結果的には深まらない議論になると思いますし、表面的な形になってしまうと思っています。そうした感じでもう一回、次世代育成支援計画に基づきながら、今までの議論はどちらかというベースみたいな議論だと思いますので、それをこちら側に落とし込んで、次世代育成支援計画と今回の区民会議と一緒にアピールしていくような方法も必要ではないかと思いました。

次に、確か三鷹市とか中野区では既に住民参加で基本構想・基本計画を策定していると聞いています。その際に区民意見がどのレベルまで落とし込まれたかということと、区としてその成果をどのように考えているのかを伺えれば、私たちも目標ができるのかと思います。

○（菊地）

三鷹市と中野区のお話が出ましたが、私は三鷹市も中野区にも行かせていただいて、職員の方から話も聞かせていただいておりますので、次回にどんな提言が出たかをお配りします。また、それに対して区としての評価はできませんので、個人的な感想として、次回お話しします。

●（司会 リーダー）

とても大切なことだと思います。やはり提言をまとめるうえでの共通の認識という視

点をもっていないと、それだけのものにならないでしょうし、方向性を出すのは必要だと思います。委員には前にも問題点の提起をお願いしておりますので、参考にしながら話を進めていきたいと思います。ありがとうございました。



現在、幼稚園と小学生の子どもが二人います。私は、親ステップアップと聞いて、自分が「なってない親」だといつも思いながら聞いています。実際、自分が子どもを二人育てていて、何が必要で何が不要なのかが議論していると分からなくなってきてしまいます。自分が育てていて何が必要なのをもっとはっきりさせて、それを実現できたらと思って、また一から考え直したいと思います。



風邪を引いて2回ほど休んでしまって、中間発表会の当日も出席できなかったのですが、資料を送っていただいて第1分科会の範囲を読みました。大変会場が盛会だったということを伺いました。今も遅れてきましたので、二人前の委員の発言からしか聞いていないので、一方聞きの発言であるかもしれないことを前置きしておきます。住民が発言をする、陳情方ではダメだ、協働について学びたいというようなお話でしたが、ひとつだけ考えに入れておいていただきたいことを話したいと思います。「協働」というと、私もこの分科会で皆さんに勧められまして地区協議会に入れさせていただきました。私は地区協議会でも子育ての部会に入っております、2月中に意見をまとめなければならぬということで、先週会合がありました。その中で感じたのですが、協働というと一生懸命、区に対してボランティアで働くことが協働なんだと思ってしまっている方が大変多いと思います。ここまでは出来ないよという意見が、実行する前から出ていました。例えば、子育ての中で感じていることは、「ゆったりーの」が素晴らしい施設なんだ。こういうのがほしいよね。でも、近くの中学校はもう他所に貸すことになっているからダメだ。戸山公園のような公園が欲しいよね。でも、地域が狭いからダメだ。というような形で、区民が自分たちの考えを区の状態に合わせてしまっているということを感じたんです。それが本当に住民の意思なのか、当然なのかというところを大変私は疑問に感じています。私たちの分科会であれば、一番そこに寄り添うのは子どもの権利条約だったり、児童憲章だったりするのではないかと思います。それを前提において、それが区の中でどう活かされるのかを考えていかないと、住民はボランティアもして、労力も出し、痩せ細ってしまう可能性があります。ただ、その逆に、すごく力を蓄えるということもあると思います。ですから、常に目標を持ちながら、お互いがここまでは譲れるとか、ここまでは自治体がやらなければならない範囲ではないかという基本をしっかり押えながら討議していくのが、区民会議の拠り所ではないかと思いました。



今回の配布資料としてパワーポイントにまとめたものが、さっき学識委員もおっしゃっていましたが、具体的なもので分かりやすく、そういうものが先に私たちの中から

出てきたのかと感じています。今後提言を出す段階では、具体的なものをやりたいということを出すものでもないし、まとめ方の視点がおかしいとか、ここが抜けているということ、私たちも4点ほど新しい目標として挙げて提案しました。それが良いかどうかは別にしまして、そのような内容の検討にシフトしていかなければならないと思います。ただ、先ほどの委員がおっしゃっていました協働の捉え方など、私たちはまだまだ会議の中で意見交換をすることに慣れておりませんので、これまでは試行錯誤の期間であったのはいたし方ないと、前向きにとらえて今後活かすことも必要と思っています。話は戻りますが、具体的にいくつかのポイントが出てきました。それをやるには今何が足りないのか、やりたいことが出来ない現状は何故なのか、区の規制があるからなのか、あるいは私たちの中での住民サイドの問題なのか、そんなことを考えることによって、ひとつひとつの具体的に取り組みたいと思うことを実現するための素地づくり、環境づくりについて一緒に議論していければと思っています。

また、現実的な話なのですが、今回も決して時間が余っているわけではなく、いろいろな意見が皆さんの中であると思うのですが、間に合うものと間に合わないものが現実的にあると思います。例えば、間に合うものであれば、それはそれで出せばいいと思いますし、今回は無理だろうというもの、それは提言の後に、実現していけるような環境づくりを図っていくという提言を盛り込むこともひとつではないかと感じました。ですから、具体的なところから、次世代育成支援計画の中で、提言の中で出来ること出来ないことを分けます。次に、できないものについては何時までにこうしようというように早めに討議しておけば、この先何を検討しなければならないのかについての道筋が見えてくると思っています。以上です。



今まで子育てをめぐるいろいろな分野を様々な角度から検討してきました。かなりいろいろな意見が、貴重な時間をかけて出てきたと思います。今後は、それを提言書に集約して、意見をしぼらなければいけないという方法論と、それとは別に、不足している検討課題も幅広く検討して、まとめるべきはまとめるというような少し矛盾した方法論を学識委員からいただいています。

また、この会議は、これまで色々な分野から集まった方々が参加していたのに、どんどん出席しなくなってしまいました。その委員に出席しなくなった理由を伺って、それを今後の参考にしないと、問題を見過ごす可能性があると思います。

それから、6月に向けて、提案の枠組みというか、議論・目的・方針など、第3分科会のまとめ方がうまいと思ったので、最終提案のフォーマットを定めて、それに従って議論を重ねていったほうが、最終のまとめがしやすいと思いますが、如何でしょうか。

●（司会 リーダー）

先ほどの「6月提言までのスケジュール(案)」を見て下さい。3月10日に提言に向けての世話人会が発足いたします。全分科会のリーダーと学識委員が集まって、最終提言

の内容について検討し、どんな方向性にするかという検討を始めると思いますので、そこで、先ほどの委員の発言にあることは、ある程度の道筋が出ると思います。その際には、ご報告したいと思っています。また、3月25日に、地区協議会と区民会議との意見交換会が予定されています。こちらはリーダーとサブリーダーが、地区協議会からは希望者が出てくることになっていますので、その報告もしたいと考えています。いずれにしても、第1分科会で検討できるのは、今日を入れて6回程度です。検討が足りないようであれば、プロジェクトチームの形で時間を割いて熟考できればと考えております。

●

第1分科会の代表として、まとめ・発表をしてくださった委員の方は、本当に大変だったと思います。ありがとうございました。少し全体像が見えてきて素晴らしいと思える点と、何かを少し落としているところがあると思います。落としている点については、先ほどの委員もお話ししてくださったように、子どもの権利条約のような、子どもの視点が盛り込まれているのだろうかと気になりました。そういう視点できちんと、全員で見たいと思います。子どもが参画していくことが大事なのだとしたら、その土台づくりを考えて、先ほどの委員がおっしゃっていたように、今後検討していくためのチームやシステムをつくって、継続して子どもたちの参画について考えていけるようなものをつくることを考えなければならないと思いました。

●

私は以前、「地域の中での子育て」グループでしたが、後に「乳幼児・小学生」グループに入りました。「乳幼児・小学生」グループに入ってからあまり議論が分からず、皆さんの役に立てませんでした。自分自身としても中間発表会では、私が考えていたことは、あまり反映されなかったのではないかと感じました。もともとの「地域の中での子育て」グループでは、地域が子どもたちに自由な発想や意欲を表現・活動できる場所を考えていました。「乳幼児・小学生」グループでは、子どもたちが実際に関わって、そこで自分たちがやりたいことをやれるというようなものを地域がバックアップする、保証する、というところがなかったので、議論に加われなかったと思っています。今後6月に向けて、その視点を入れてもらえたらと考えております。

●

私は最初に「子育てのための環境」グループにいました。その後、「中学生・高校生・青少年」グループに入りました。移ってからは十分に発言が出来なかったと感じます。ただ、その中でもジュニア市民会議には非常に関心を持っていたのですが、あまり十分な検討の煮詰めが為されていないように思いました。この提案にはニートの発生にも関係があるのですが、どういう段取りでジュニア市民会議を発足させるかという点をもっと詰めていかなくてはならないと思っています。

●

私の意見は、今後の方針カードにびっしり全部書いてあります。旧「小・中学生」グ

ループのメンバーが、今日もほとんど顔を出しておりません。ほとんど、中間発表の内容に組み込まれなかったものですから、がっかりして出てこない委員がたくさんいます。私は旧「小中学生」グループをもう一回再編成して、教育についてもっとディスカッションしたいと思います。発表会の際に、なぜ教育の問題が落ちたのですかと聞かれました。私は教育という問題をちゃんと捉えて提言していきたいと思っています。私は少なくとも、新宿区の小中学校の校長全員に会いたいと思っています。

●（司会 リーダー）

確かに、中間発表会の時に、教育の問題が落ちてしまったということがあったと思います。ですが、提言に入らないということではありません。今の発言にあるような形で、進めていただいて、しっかりと方向付けを考えて行きたいと思っています。

●

日ごろからあまり参加できずに申し訳なく思っています。非常によくまとめていただいて、発表を聞かせていただいてびっくりしたのと、時間が少なくて発表者の方にはお気の毒だったと思いました。次回は、倍くらいの時間をとっていただければ、訴える提案も、聞き手により入っていくのではないかと思います。

先ほど、行政との協働というお話が出ました。本音で話をして行かなければ、なかなか新宿区の将来の良い姿というのは、引き寄せられないのではないかと思います。発表の中に、スクールコーディネーターや学校評議員制度がありますが、こうしたテーマもマイナスのイメージから入って行って、そこからどういう取り組みが必要か、達成された姿はどのようなものかという順序で進んでいるように思います。民間と行政の意見をお互いにぶつけ合わない、何をやるにも良い姿というものは引き寄せられないと思います。

●

発表者の皆さん、本当にお疲れ様でした。私の個人的な意見では、最初に区民会議に参加した時と、今回自分が発表した時とは、ずいぶんずれが出てきたと感じます。どうしてかということ、「親への支援」グループに入って、児童館で働いて子どもや親、仲間の職員と接しているのと違う意見を持った方がこんなにたくさんいるんだ、いつも同じような土壌で話していたんだということが、すごく良く分かって勉強になりました。今後はどちらかということ、子どもの権利を守っていくとか、子どもの主体性を伸ばしていくとか、次世代育成支援計画の中にもきちっと触れられている子どもの権利条約を社会全体に浸透させていくとか、子どもの権利が侵害されたときに、それを訴える法律的な場所が区内にちゃんと確保されるようにしたいと思っています。そうしたことに取り組んでいけたらと思っています。

<板書>

- ・全員の思ったことが反映できなかった
- ・区民のできること、区のやることを整理する必要



- ・ ベースの確認
  - ・ 協働の勉強がしたい
  - ・ 住民の限界を知る、解決法は？
  - ・ 陳情から提案型へ
  - ・ 行政も意見をもっと積極的に言うべき
  - ・ 他の自治体の住民参加の事例成果を知りたい
  - ・ 何が必要で何が必要でないのか当事者の目線で考えたい
  - ・ 地域協議会—ボランティアで働くことが“協働”ではない
  - ・ 住民自治って？
  - ・ 子どもの権利条約、児童憲章、憲法、教育基本法
  - ・ 目標は何か？
  - ・ プロセスは？
  - ・ 分かりやすく、具体施策はあった
  - ・ なぜ出来ないのか？要因分析、環境づくり
  - ・ やりたいこと
    - できること
    - できないこと ← どうするの？提案してもよいのでは？
  - ・ ポイントは何か？絞り込み方へのアドバイスが欲しい
  - ・ 来られなくなった人たちへのフォロー
  - ・ 最終提案のまとめのフォーマットを決めてはどうか
  - ・ 3月16日に全体会の考え方を示せる
  - ・ 子どもの視点の盛り込み方が不十分
  - ・ 子どもの参画のための基盤整備も必要では
  - ・ 私たちの議論とは違う印象をもった
  - ・ 子育て支援 ⇔ 子育て どう整合性を持たす？
  - ・ グループ編成の問題
  - ・ ジュニア市民会議をもっと考えたい
  - ・ 小中学校グループの意見が反映されなかった
  - ・ なぜ教育が落ちたのか — 学区の問題
  - ・ プレゼンテーションの時間をもっと増やした方がいいのでは？
  - ・ 最初と今でズレが出てきてしまった
  - ・ 現場と会議のズレ←勉強になった
  - ・ 子どもの権利・子どもの主体性
  - ・ 権利侵害された時どうするか
  - ・ 教育行政の事情をどこまでできるか
  - ・ どういうスタンスで提案するか
- ・ グループに分けたこと
    - ┌ 子どもの権利
    - └ 学校教育
- 第1分科会

  - ┌ 乳幼児
  - ├ 小中学生
  - └ 青少年

●：(司会 リーダー)

皆さんありがとうございました。いろいろな意見が出ましたが、当然のことと思います。中間発表ということで、どうしてもこじつけ的なところが多かったのかなと反省しております。これから時間はありませんが、十分に皆さんの熱い気持ちを入れられるような提言にしていきたいと思います。

◎：(杉山)

ちょっと気になったのが、教育がほとんど入っていなかったというお話がありました。中間発表会のレポートのシートで見ると4枚ほどあるのですが、それがどうして、そういう意見がでるのかということは、今後、会議を進めていくうえで大切なことです。今日は旧「小中学生」グループの委員はお一人しか出席していませんか。

●：

そうです。なぜそうなったかということです。

◎：(杉山)

そうですね。これはこのまま放っておいたら、委員までおいでにならなくなってしまう。

●：

私も今日がダメだったら帰ろうと思っていました。

◎：(杉山)

どうしてそうなったかということは、提言の中身以前の話です。

●：

すみません。ひとつ言いたいのは、みなさんが言っているのはグループ編成を途中で変えてしまったことが失敗だったということなのです。私もそう思っています。

◎：(杉山)

私が聞きたいのは、これではダメだったのかということです。レポートに4枚シートがあつて、提案が出ているのですが、これではダメだったのでしょうか。

●：

もっともっと、教育の内容について踏み込んだ話もしているのに、全部消えてしまっているのです。

◎：(杉山)

ということは心が入っていないということですか。なんというか「仏作って魂作らず」のようなことですか。

●：

グループの意見として発表しますと発表時に言われました。他のグループの意見は、第1分科会としての意見になっているのに教育は違う。私たちの意見は全部なくなりました。何故そういうことになったのか。その点について非常に私は憤慨しました。だから、皆さん来なくなってしまったのではないかと。変に考えれば、そう考えられます。

◎：(杉山)

とうことは、第1分科会としてではなく、親への支援、乳幼児、青少年というグループでの発表となっていたということをご指摘されているのですか。

●：

要するに他の方から聞かれたのは、何故、教育が落ちたのか。中間発表の提言に入っているのは教育ではありません。

◎：(杉山)

今の発言で、二つあったのは、教育が抜けたということと発表のやり方が親への支援、乳幼児、青少年グループだけの発表になってしまっていて、本当は第1分科会として発表すべきだったのではないかということですか。

●：

そういうこともあります。教育という第1分科会のテーマのひとつが、すっぱり抜けていると他の方に見えたのではないかと思います。

◎：(杉山)

それに対して、起草委員の方はいかがですか。

●：

言い訳になってしまいますが、グループを途中で分けた際に、旧「小・中学生」グループを旧「乳幼児」グループと旧「青少年」グループに分けてしまって、レポートの最終のまとめの時に、グループのリーダーと話した際に「教育」という視点は確かに抜けてしまいました。それで、原稿を作った際に、事務局のほうから「教育の視点が抜けているから、教育だけは入れないといけない」という話があったので、青少年グループが話していた教育の話之急遽入れました。しかし、発表練習を行った際に、今度は別の委員の方に「これは青少年グループの中で考えた教育の話だ」という意見がありました。それで、私の意見なのですが、教育以外の点は方向性として皆さんの同意を得られるのですが、教育に関しては学識の汐見委員も含め、「違う意見もあるよ」ということで、もっと議論を深めなければいけなかったのにそれができなかった。けれど、まったく教育を入れないわけにはいかなかったので「青少年グループの意見として」と前置きをせざるをえなかった。「これを全体の意見として言ってもらっては困る」という意見もあったので、そういう一言を入れて発表しました。

●：

全体の発表に関しても「第1分科会全体の意見」として発表してはいけない部分もいくつかあります。

●：

そうですね。ですから、その部分は直前になってさまざまな意見が出てきてしまい、バタバタしてしまったので、申し訳なかったという気持ちです。

● :

よろしければ、会議録をぜひ事務局で提出してほしいと思います。

そこでまず1点目ですが、教育の方で、学校選択制の議論が出た際に、これについては汐見委員が「いろいろな見方があります。学校が選択制になったことで、確かに地域の育成会等の方々がこれを課題に感じている方も中にはいます。でも、学校が選択制になったことで開放された子どもたちもいます。例えば障がいをもっている子どもだとかがいます。」という例を挙げられたと思います。

次に、今の教育の問題というのは教育長をトップとしてピラミッドができています。これは今進めようとしている区民会議において、区の職員の方が関わるにも限度があります。よって、学校教育の詳細をどこまで詳しくやるかということは、おそらくこの区民会議の設定の問題です。それについても汐見委員が「教育は右の意見から左の意見まで非常に幅が広いので、難しいのではないですか」という投げかけをされていると思うのです。そこが整理されていない。ですから、こちらとして汐見委員、杉山委員、あるいは区のほうかもしれませんが、どういうスタンスで教育について提言するのかははっきりさせないと、なかなかまとめることは難しい。

私の今まで関わってきた経験からすると、例えば、先ほどの委員がおっしゃられたように、旧「小・中学生」のグループをつくって、そこからの議論をひとつテーマとする。それから、子どもの定義というか、子どもの側から見て、ここは地域だけではなくて、学校の制度等を含めて、これらを併記する形で行わなければならない。教育になると皆さんの意見が違いますので、提案とさせていただきます。

● : (司会 リーダー)

ありがとうございました。先ほどから申していますように、議論が足りないところはプロジェクトチームとか、ワーキンググループとかの形で議論していただいてもかまいません。意見はたくさんありますので、この意見が正論で、この意見は異論ということは表記しにくいと思います。

● :

断っておきますが、例えば学校評議員について中間発表会前後に、ある小学校の校長先生に私の言っていることは間違っているのかと聞きました。その校長先生はあるグループの代表です。その先生がおっしゃるには「間違っていない。教育長もその見直しを図ろうと考えています。」ということでした。ですから、私は地に足が着いた議論をしたいので、中学校についても、今後は校長先生の話聞いていこうと思います。

● : (司会 リーダー)

評議員制度についてはパワーポイントにも出ました。何度も同じことをいうようですが、時間もないことですから、ご検討をお願いしたいと思います。

◎ : (杉山)

旧「小・中学生」グループの方たちが来なくなってしまうのは、この分科会として良く

なかったと思います。中間発表会でモチベーションが下がってしまった委員が、何人かおいでだったとしたら、このまま分科会を走らせてしまうことは避けたいと思います。しかし、時間がないことは確かですし、なんとかまとめていかななくてはいけないというリーダーのお気持ちも分かります。そこでどうでしょうか、リーダーの考えのようにテーマごとのワーキンググループというかプロジェクトチームをつくって、やりたい委員が集まる形を採るのか、または分科会の中で新たにグループを再編成するということなのか、どちらでしょうか。

●：(司会 リーダー)

基本的には全員で検討するのが一番なのですが、検討に費やす分科会を残された回数で行うとなると、時間がないので、テーマごとに議論をしていただける委員を中心に集まっていたら、そこで話し合ったことを第1分科会の全体会で報告していくという方法しか考えられません。そういった意味で、先ほどの中学校の校長先生と話し合った結果もここで報告していただくことになります。

◎：(杉山)

今後の区民会議は全体で話し合うのか、グループで話し合うのか、どういう方向で行うかの見通しをお聞きしたいのですが。

●：(司会 リーダー)

今までのようなグループ分けではなく、落ちている課題を全体で議論を進めていこうにしようと思っています。皆さんの方で何かこういう形のほうが良いという意見があって、それが多数意見であれば、そのようにしようと思うのですが、いかがでしょうか。特に決めたことはないのですが、一番の問題は中間発表会で落ちてしまった課題の中には、大切なこともたくさんあります。その辺りの議論を全体で進めていければと思っています。先ほども言いましたが、議論が足りない課題についてはワーキンググループなどで検討してもらいたいと思います。

また、中間発表会における不足項目については、案としてレポートの章別に整理をしました。この順番で6月の提言までに、欠落している課題の議論を進めていきたいと考えています。一度に行くと無理があると思いますので、皆さんと話し合いながら進めていきたいと思っています。

◎：(杉山)

つまりはこのパワーポイントがベースで、そこに対して不足項目について各ワーキンググループで議論していくというプロセスで良いですか。(「第1分科会 6月提言までのスケジュール(案)」を参照のこと)

●：

いわゆる議論というのは、必ず意見が分かります。そこで大切なことは、分かれた意見について話し合うことですが、そこまでの時間が分科会全体では取れません。そこで私の提案としては、いつまでにこのテーマについて議論をしてきてくださいと投げかけ、まと

め、それをフォーマットに示すことです。今までのグループを壊して議論を始めるのは、しっくりいかないような気がします。ですから、このような全体会の場をもつのはある意味、提出期限前にしておいて、それまでにそれぞれのグループで議論をします。また、この間の中間発表会の提言をまとめる際に、小原委員からあったのですが、この間はキーワードのすり合せができませんでした。ですから、今度は最後のところで余裕を持たせておいて、キーワードのすり合わせを起草委員に行ってもらって、またそれをグループに戻し、まとめるという形が良いのではないのでしょうか。

●：(司会 リーダー)

いかがでしょうか。おそらく言っていることはそんなに違ってないと思うのですが。

●：

「今後の方針 意見・提案カード」の中に、どなたかが書いた意見があるのですが、結局、議論をするという点では良いが、まとめるという点では言い放し、聞き放しになってしまって終わっています。ゴールは6月にあるわけですから、それをまとめるファシリテーターが必要です。テーマを出し合って、グルーピング、プレゼンテーション、意見の一致というのは全員ではできませんから、それらを束ねるようなものをつけて、それを積み上げてピラミッドにしていけば、まとまった意見になるのではないのでしょうか。みなさん方法論について意見や不満があって来られなくなってしまった委員が多いのではないのでしょうか。

◎：(杉山)

質問なのですが、パワーポイントでまとめたこと、先ほど皆さんから意見を聞いてホワイトボードに板書をしたこと、事務局が出してくれた「中間発表会レポートでの不足項目(案)」に書いてあることがかみあっていません。どうするのかなと思いました。例えば、「中間発表会レポートでの不足項目(案)」については、ここについてもう少し議論してほしいということを事務局がまとめたものです。この中に入っていることは、先ほど皆さんから出された意見の中には入っていません。しかし、「子どもの権利条約」という意見については何度も出ました。これはどうしてなのでしょう。別な機会に議論不足の課題を聞けば、また今回と違う話が出てきて、また新たなものをつくることになります。そうすると6月になっても、来年になっても提言はまとまりません。具体的な話をどんどん進めていかないと、格好悪い状態になると思います。

●：

中間発表の発表項目を作っている際、私たち起草委員も皆さんから出た意見をひとつひとつ取り入れたいと思いました。しかし時間的に余裕もなく、十分に取り入れることができませんでした。

ですので、6月に向けて、またそれをやっていかなければならない。その時にはできるだけ効率的に、かつ皆さんの意見が欠落することなく、まとめていきたいのです。そのために、どうしたら良いのかということ考えた時に、この「中間発表会レポートでの不足

項目(案)」は事務局がつくられたのですよね。どうしても資料作りに携わった者として、この項目分けに敏感になってしまうのですが、この項目分け、つまり骨組みですね。最終的に出す資料の骨組みがどうあるべきなのか、そこをきちんとおさえなければいけない。

あのパワーポイントを作る際に、皆さんの意見を落とすことなくまとめるには、どうまとめたら良いかということで、まずひとつの視点は「年代順」、もうひとつの視点は「地域」と「環境」ということになり、どうしても時間軸と水平軸の組み合わせでまとめないと、私たちの議論は報告できないのではないかとということで、このような順番になったのです。

最終的な提言書において、この順番にするべきだという議論も十分にされていません。ですから、逆にこの視点で中間発表会のレポートを見ながら不足点について話し合っていくことも必要と考えています。そしてある程度、地図が見えると、そこを調べる委員を決めて調べていただければ、事前資料も充実します。

◎：(杉山)

ということは、この骨組みから直してしまおうということですか。

●：

私はその見直しは必要だと考えています。それによって、皆さんが納得し、「私はここに責任をもちます」ということが言えると思うのです。

◎：(杉山)

ということはこの中間発表における資料は、皆さんの合意のないままにまとめられたということですね。

●：

そうです。今後、どうまとめていくかという点のコンセンサスをとって、それぞれがどう担っていくというやり方をしないと、直前になって取りこぼしが出て戻れなくなってしまいます。

◎：(杉山)

ということは、みなさんがつくった資料を徹底的にたたくということですね。

●：

もちろんそれも必要です。

◎：(杉山)

このレポートを土台にして、この順番をこうしていったほうが良いというやり方が早いと思いますが。

●：

ですから、このような形で事務局がまとめてしまったから、私が一番抵抗感を感じて、私たちのグループのまとめを私が出したのです。なぜ、私が出したかというと、私たちの考えるまとめは、区のまとめではないよ、私たちのまとめはこれだよという形にしたかったのです。

◎：(杉山)

区のまとめというのは、「提案整理表(現行の行政施策)」のことですか。

● :

そうです。以前、区のほうから「私たちが今、議論していることはこういうことです。このような視点でまとめたらどうですか。」という項目表が渡されたと思います。それに対して、私はあのような形でまとめたのです。

ただ、それ自体がやはりワークショップを行い、議論してまとめられたものではないので、私たちが作業してきたところが抜けています。学識委員のお二人はどちらかというところファシリテーターというか、進行役という方が強かったと思います。

◎ : (杉山)

そうです。私たちはそのように頼られましたから。

● :

ファシリテーター役がいなかったから、このような形になってしまったのです。

◎ : (杉山)

それが必要かどうかの議論も必要ですね。

● : (司会 リーダー)

もちろんです。

◎ : (杉山)

つまり、この「中間発表会レポートでの不足項目」については、事務局が皆さんの柱に対して、区としてはこの議論をしてほしいという提案をしていると思います。それに対して区に乗っかっているというのは違うと思います。「これらの柱はみなさんが立てた柱です」というところは間違いなく外に出ているのですから、その責任はあります。中間発表会で、多くの人の前で、他の分科会の人たちの前で発言したわけですから。みなさん、報告書の文章を見ながら、「第1分科会の考え方はこれだよね」という作業をするわけですよ。その辺りを確認していただかないと、「実は違ったんです」と、今言われても驚愕するばかりです。

● :

その前に、それをずっと私たちは言っていました。それに気がつかない杉山委員も問題です。

◎ : (杉山)

どうしてですか。

● :

それで、みんなたまっているんですから。

◎ : (杉山)

ひとつの報告書として中間発表会で出したわけですよ。そこから出発していかなくてはならないのだから、「そこは実は違ったんですよ。だから第1分科会だけは提出できませんでした、というわけにはいかないね。」ということで皆さんで、まとめをがんばってくれ



たのですよね。ですから、「他所から見たときにそう見えますよ。」ということです。

● :

だから私なんかは、最初から中間発表はやらない方が良いと思ったのです。なぜかという、これは踊らされているような感じで、自分たちの意見がまとまったものではないという思いがありました。だから、多くの人にもそのような思いがあるから、今日の参加者がこんなに少ないのかもしれない。

● :

「中間発表会レポートでの不足項目」については議論しなくてはならないのは当然だと思います。やはり、議論したものがどこに入るかという、フォーマットのような枠組みのようなものができていないと困ります。プログラムレベルで議論して良いのか、理念として議論して良いのか分からないので、議論の行き先というか、最終報告の行き場所がはっきりしていると議論がしやすいのかなと思うのですが。

◎ : (杉山)

理念の共有が、あまりなかったということですか。

● :

一番初めに汐見委員がおっしゃっていたような気がするのですが、ここで議論されたことが「次世代育成支援計画」の中に新たに入るものがあれば、入れていくという形で良いのですよね。ということは、「次世代育成支援計画」の中に盛り込まれる意見と、別なものに盛り込まれるものという形で出していくということですか。

○ : (菊地)

皆さんに議論していただいているものは、先ず新宿区の基本構想です。新宿区にとって大きな理念でして、区の10年後、20年後の目指すべき方向を議論していただいています。それから、基本計画です。これは基本構想から出た、その目指すべき方向に向かって具体的にどのような施策を進めていくべきかを議論していただいています。

一方、次世代育成支援計画というのは、新宿区の基本構想、基本計画の後にできた計画です。したがって、子育ての課題については一番新鮮な情報が、次世代育成支援計画に入っています。新宿区の基本構想、基本計画という全体が新しくなることによって、次世代育成支援計画も見直しをすることになります。次世代育成支援計画は、平成21年度までとなっておりますが、現在の基本計画は平成19年で終わりますので、新基本計画と整合性をとる形になります。学識の汐見委員は、討議する際に次世代育成支援計画が一番ベースにしやすいから、これを基本にしてほしいとおっしゃったのです。ですから、皆さんが議論されて、新宿区の目指すべき方向が変われば、それに伴って次世代育成支援計画も変わります。

● : (司会 リーダー)

議論は尽きないところですが、中間発表会の項目の整理については、今から作り直すのは、一度発表したものを直すということになり難しいと考えます。基本的にはこの形で

そんなに問題はないのではないかと考えているのですが。

● :

中間発表会のまとめの作業に携わったひとりとして反省があります。正直に言うと決して、新宿区に踊らされているわけではありませんが、中間発表会の発表用の資料を何日までに提出しなければいけないといった納期に対して、踊らされていたという思いがあります。とにかく、この中間発表において何かを残さなくてはならないという思いが強くなりました。起草委員だけで作業を進めてしまった点は、反省しなくてはならないと考えています。それは本当に申し訳なく思っています。

当然、制限のある中でレポート作成や発表をしなければならなかったのも、皆さんのひとつひとつの思いが、形として中間発表会の場で発表されたものと遠くに感じられた委員がいらっしゃっても仕方なかったと思います。自分の主張が入っていた、入っていなかったという意見があるのは当然です。作業をしている際に、起草委員の中では「これは中間発表だから、最終的な報告ではないから。今回、落ちてしまった提案、良いなと思った資料は最終報告で、まとめさせてもらおう」という話になっていました。そういう細かな報告をする時間もないくらい、やはり月2回の会議だけでは難しいと感じました。

今後、6月の最終発表会に向けてのスケジュールですが、今回の中間発表会の作業の過程で、それがどんな修羅場になるか、想像したくないくらい状況になるのではないかと感じています。今回の分科会の前に、汐見委員の学校にうかがった際には「ドタバタにならないように、スケジュールリングしていかないとね」という話と「月2回の会議だけではとうてい議論できない」ということでした。

中間発表会の起草に加わった委員は、職場から「またですか。」と言われるくらい、どっちが本業か分からないくらい、何度も集まりました。また、資料を作ってくださった方々の中には、夜中に作業をしてくださいました。本当に皆様のご意見があるのは、重々承知なのですが、作業グループのメンバーも、家庭もあり、仕事もありの中でとにかく形を作らなければいけなかったということで、謝って、分かっていたきたいのです。

それで、問題はここから先どうするのかということです。それについて、私は皆さんが持たれるこれからの進め方についての違和感は、二種類あると感じています。ひとつは、このレポートの項目立てに対してご意見のある委員と、二つ目は発表の中身が実際に話し合った中身と違うというご意見があると感じるのですが、いかがでしょうか。

ですから、どうまとめているかというところで、中身とリンクしていかなければなりません。全体のまとめをどうするかを全体の会議の中で話し合いをして、個々の関心のある事柄について、どういう形になるかわかりませんが、先ほどの委員からお話があったように納期を決めて、その中で関心のある委員が集まって、別の動きをして、全体の中身に対して発表するという形にする。それを分科会の中で、全員でコンセンサスを得たり、学識委員から意見をもらったりという方向性や軸を考えていくことを提案します。

◎ : (杉山)

一点だけ確認なのですが、資料の「中間発表会パワーポイント」の3ページで、「ビジョン（目指すべき社会）を明確にする」とあります。「新宿区次世代育成支援計画に明記されている目標」が5つと私たち第1分科会として考えた目標が6、7、8、9とあります。先ほどのみなさんからの意見で「子どもの参画が足りない」とおっしゃられている委員が何人もいたのですが、この目標設定では足りないのでしょうか。

そこで聞きたいのは、もうこの目標ですら気に入らなくて、一から直したいのか、とにかくビジョンはOKなのかという確認をしたいのです。

● :

ここに書いたことが中間発表会で発表した内容の粹、いわゆる「たたき」がこれになります。杉山委員がおっしゃられたことは、目標の追加ということで本来ならば「新宿区次世代育成支援計画に明記されている目標」の5つで足りるところなのに、「これでは足りないから」ということで目標6、7、8、9の4つの資料を足そうとしたことに対して、これで良いのかということです。また、まとめの作業している中で出てきたキーワードとして「持続可能な未来づくり」があります。この目標のために子育ての支援や青少年の支援等が大切だと訴えることによって、第1分科会の存在意義をアピールしたのですが、果たしてそれで良いのかとも思います。それで、先ほどの骨組みのところ、不足項目として挙げていただいたところと若干違うのですが、親への支援と、乳幼児の子育てと、地域の環境づくりをドッキングしました。また、先ほど、皆さんが議論されていました小・中学生の学校教育を少しだったかもしれませんが入れさせていただいて、青少年が入って、ここまでが、第1分科会が守備範囲とするライフサイクルですとしました。その後に見直してみると、参画で言えば、どんな世代で何をやりたいという話をしても、結局問題になってくるのは「必要な情報が必要な時に回らない」という情報や仕組みの問題があるのではないかと。あるいは「子どもにとっても、小さな子どもを持つお母さんにとっても居場所が大切だよ」とか、「ワークショップのような、様々な世代の方と学べるような場が必要だよ」とか、いろいろな視点から出てきた共通項をまとめたものが、最後に加えた「おわりに」になっています。これが中間発表会の作業の現状です。ですから、ビジョンや目標等の文言の修正はあると思います。

<板書>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの参画</li> <li>・働き方</li> <li>・リスクを抱えている家族</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親支援</li> <li>・乳幼児 子育てと地域環境づくり</li> <li>・小中（学校教育・それ以外）</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年（16歳以上）</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参画実現の観点で見直すと…             <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報（しくみ）</li> <li>・場づくり</li> <li>・ともに学ぶ機会づくり</li> </ul> </li> </ul>	ライフ サイ クル ↓	<p>&lt;ビジョン&gt; 持続可能な未来づくり</p> <p>&lt;目標の追加&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑥子どもの参画</li> <li>⑦行政と市民</li> <li>⑧伝統などの継承</li> <li>⑨愛着の持てる地域</li> </ul>
---	----------------------	--

◎：(杉山)

ビジョンや目標の議論を今後行っていくことで、合意が得られるかどうかということですか。まず理念を決めることは今日やっておけば良いと思うのですが、その後、項目で切っていく作業をやっていくことが良いのか、そこも気に入らないというのか、そこを教えてくださいたいのですが。

●：(司会 リーダー)

あくまで、今日の資料はたたき台です。このような形でどうでしょうかということですか。先ほども言いましたとおり、区がこうしろと言っていることでもありませんし、「中間発表会レポートでの不足項目」の資料も、どの辺りが欠落しているか私の方からお願いをして事務局にまとめていただいたものです。ここにある不足項目だけでは、足りないかもしれません。この外に皆さんが気づいた点について、出してほしいという資料です。

●：

最終報告の際にも、発表にはもちろん制限があると思うのですが、最終報告書のページ数の制限はあるのですか。

●：(司会 リーダー)

先ほどもお話ししたとおり3月10日に世話人会が開かれます。その場で全部の分科会の提言がどのようになるのかの議論が始まります。

◎：(杉山)

ページの制限はつけてくれと私は言うつもりです。なぜなら、たくさんあってもみなさん読みません。読めるものをつくるということです。

●：

提言は、何について書けとか、そういうのはあるのですか。

◎：(杉山)

それも今度の世話人会の議論になります。

●：

中間発表会では、第6分科会のようにテーマを全て発表しないで、選んで発表するというのも良いのではないのでしょうか。

●：

ここに書かれているビジョン等は、皆さん合意したうえで書かれたものではないのですか。ここで、合意していない委員は意見を言っていて、入れていけば良いと思うのですが。

◎：(杉山)

進め方について(「第1分科会 6月提言までのスケジュール(案)」参照)、この月のこの日の分科会は、これについてというような議論の進め方で、良いのかということですよ。

●：

ですから、進め方については、その外にも様々なやり方について提案された委員がたくさんいましたよね。だから、それをまとめる人がいないのですよ。細かな議論について、グループに返して行うという意見が出たじゃないですか。全体で行うのは、枠組みとかフォーマットの部分だけという意見がでたと思います。

◎：(杉山)

しかし、納得できないような話になっていませんか。

●：

納得できないのではなくて、全体で議論しても仕方ないのですよ。

●：

委員の言っている議論と杉山委員の言っている議論の意味が違うと思います。発表の内容を詰めるという議論ではなく、杉山委員が言っている議論というのは、あるグループが、例えば「乳幼児・小学生」グループが「こうです」と言ったことに対して、「それは違うのではないのか」という議論は、しないといけないということです。委員の言っている議論というのは、「乳幼児はこうだ」というたたき台を作る議論のことだと思います。

◎：(杉山)

でも、それについてはもうやっていると思うのですが、それは違うのですか。

●：

それが違うと言っているグループもあります。それで、違うとか不足の部分を検討するということです。

◎：(杉山)

これは私の案ですが、たたき台をみなさんにご準備いただいて、それを全体で議論を進めていくほうが、あとあと納得できるかなと思います。ですから、ここは会議の進め方に意見がおありの委員がファシリテートしていただいたら良いと思うのですが。例えば次回は「親への支援」と「子育てを核とした地域再生」についての第2章の資料をたたき台にするのだけれども、「そうではなくて、もっとこういう議論をしたいのだ」ということがあればそれを準備していただいて、中身を増やしていくとか減らしていくとか、そういう議論をしていけば良いと思います。

●：

それは良いと思うのですが、議論のレベルを理念のレベルで議論するのか、プログラムのレベルで議論するのかという疑問があるのですが。

◎：(杉山)

理念は、これで決定ではないのですか。

●：

理念をもう一度話し合いたいということですか。

●：

私はこれで良いのですが、皆さんはこれで良いのですかということです。それと、やは

り基本構想の提案ですから、それにふさわしい提案の方法が何かあるのではないかと思います。目標の部分は子育て支援です。ですから、もっと上のレベルの提案もあって然るべきだと思います。

◎：(杉山)

それは考えなくても大丈夫だと思います。今まで、区がつくってきた基本構想に則ろうということはまったく考えなくて良くて、皆さんたちの議論がどうなっているのかというボトムアップでいこうとしています。ですから、第1分科会でこのような議論になっていますという項目を入れ込むという形で良いと思います。

●：

「経済市場主義が子育てを阻害している」というような意見をどこに載せたら良いかということです。

◎：(杉山)

それは世話人会に出席している委員が、全体が見えてきた時に「ここに入れてくれ」と示してくれます。

●：(司会 リーダー)

具体的には「第1分科会 6月提言までのスケジュール(案)」の5月にもありますが、「はじめに」、「おわりに」の検討があります。総論的なところに、今おっしゃられた言葉を入れる、入れないといったような議論になると思っております。

●：

第3分科会がやっていたように、項目を最初に書いて、下に具体的なプログラムを提案していたように、フォーマットを示してもらえれば、そこに入れるものをどんどん全員でアイディアを出していけるのではないのでしょうか。

◎：(杉山)

今、まとまっているのではダメなのでしょうか。

●：

今のレポートは年齢軸で分けたものに、学校教育が入っているので、私は小・中学生と学校教育は別にしないとダメかなと思っています。

●：

それもあるのですが、学校教育の中に小・中学生は入っていて良いのです。義務教育です。ここに入っているのは小・中学生のみで、高校生は入っていません。あくまでも義務教育の範囲内です。

●：(司会 リーダー)

目標の6番目に「子どもの参画」と明記されています。「子どもの参画」というのは年齢が限られているのではないので、これは全てにかかってくることだと思います。

●：

さっきから教育にこだわっているのですが、進め方から考えると、今日、明日から学校

訪問を始めなければなりません。そして私は5月いっぱいには全提案をまとめようという考えでいます。ですから4月いっぱいには学校の先生に全員会うつもりで、議論を進めていきたいと思っています。

◎：(杉山)

それでは間に合いません。このスケジュール(案)をひとりの委員の思いで変えることはできません。ですから、委員が学校の先生にお会いになられるのであれば、4月中にこれらの細かい議論を終わらせないと、5月、6月のまとめに入れません。

ここに参加しているということは、6月までに最終報告を行うというルールに応じたということです。ルールに従って最大限にどうするかということです。

ですから、4月中になんとかならないでしょうか。

●：

それは5月の第1回目の分科会にずれこんではダメなのではないでしょうか。

●：(司会 リーダー)

そうですね。そうなりますと、総論の部分をその次の分科会に延ばさなければならないので、非常に後が辛いと思います。

●：

ビジョンのところで、学識委員のお気持ちもよく分かるのですが、私が一番思うのは、本来、ワークショップでいえば、参加者が出してきたキーワードをひとつにまとめて、落とし込んでいけば、全員が納得するような気がします。この会議のプロセスは、そのような形でしたか。私も全部の回に参加していないので分からないのですが。

個々の委員が示してきた細かな提案を全部、示していない気がします。そんなことはないでしょうか。

●：(司会 リーダー)

中間発表会では、そこまでの内容を発表できなかったということもあります。

●：

だとしたら、今の段階で今後の進め方をまとめてしまうのは、今日もいらしていない委員が多い中で、強引かなという感じがします。これは1回置いて、それで、もう1回グループを最初の状態に戻して、各グループで議論し、まとめてもらい、議論を戻していかなないと、中間発表会で一気にまとめてしまった発表を取り戻せない気が非常にします。

●：(司会 リーダー)

確かに、取り戻しは必要です。他の委員で意見はいかがでしょうか。

●：

例えば、「親への支援」に関しては、かなりすっきりまとまっていて、ここを最初からやらなくても良い気がします。また「乳幼児の子育て」についても、すごくたくさんあったものを全部はできなかったのですが、練り直すとやはり全部やりたかったということになると思います。発表した内容に対しては、概ね異論はないかなと思うので、それに対して

これを言いたいとか、落ちている部分に絞るといえるのでしょうか。

青少年はどうなのですか。皆さんに聞いた感じでは、異論があるのか、ないのか。

● :

私個人の考えなのですが、今まであまり施策として入っていなかったという観点で、いろいろ指摘はしたいけれども、ジュニア市民会議を具体的にどうするかという話はこの場ではもう議論しなくても良いと思っています。ジュニア市民会議に関しては実行委員会を立ち上げて、プロジェクトミーティングを進めていけば良いと思います。

青少年については、今の「次世代育成支援計画」には観点が少ない、もしくは高校は都の管轄なので分断されているということが、指摘できれば良いかと思っています。

◎ : (杉山)

それは違うと思います。例えば、外にニートへの取り組みもあります。

● :

それは逆に言うと、青少年のところで区切るべきではないと思っています。子育て全体の中で、必要な施策だと思います。ニートと呼ばれる人たちは、確かに年齢では青少年の範疇に入りますが、急に現れるわけではありません。ニートの観点はどの世代の子どものことを論議するにも、ずっと持ち続けることが大切です。どういう人づくりが必要なという観点を私たちが持つことによって、ゆくゆくはニートを減らせるのではないのでしょうか。私たちがどのように「育つ」ことを求めているのか、そことすり合わせられるのではないのでしょうか。

● :

もし合意がとれれば、問題になっている小・中学生と子どもの参画、障がい児、外国人、ひとり親、働き方の見直しを議論し、たたき台にしたらどうですか。練り直すだけではなく、新しい宿題もまだまだ残っていると思います。

● :

私の提案としては、3月16日の分科会の中で、軸やキーワードをもう一度、中間発表会の発表の形にいろいろと付加していき、最終として提言するのか。また最終報告会では、それらはなくなるということではないと思います。それを活かしてプレゼンテーションの切り口を別の切り口でやるとかの議論を次回の分科会で行い、そこで発表会の方向性や前向きな意見を言う場にすることを提案します。

一方、発表されていないテーマや「もっと現場を知るべきだ」という意見も出ましたので、それは肅々と平行して各有志の委員で情報集めなり、議論なりを自由に3月中は行っていただき、それぞれが足と頭を使って言いたいことを温めたり、根回しをしたりする期間にあて、その代わり4月の2回の分科会は、手短かに議論をしていく場にするはどうですか。とにかくやっていくしかないのですが、このまま突っ走ると最終発表会では半分以上の委員がいらっしやらなくなってしまう気がします。ここまで一緒に議論してきた同志なので、ちょっとしたボタンの掛け違いだと思うのです。私たちが、そこを分かり合



えないと、とても区民を説得はできないと思います。いかがでしょうか。

◎：(杉山)

皆さんに宿題をお願いしたいと思います。このレポートに「ビジョン（目指すべき社会）を明確にする」と書いてあります。このままで良いのか、どうしたいのか、おひとりずつ考えてきて下さい。できれば、あまりいじりたくないという進行側の気持ちもあります。

言葉の違いとかではなく、「これではないのだ」というはっきりした思いがあるのであれば、それを出してほしい。それは今日、出席していない委員の方たちにも考えてきてほしい。私は改めてこうやっていこうよというより、レポートにあるものを少しずついじっていく方が建設的ではないかと思います。

ここにご参加の委員の中には子どものことをすごくよくご存知の方もいらっしゃれば、問題意識は持っているけれども、最近の子どもの現状は良く知らない、パソコンが上手にできる人、そうではない人とか、様々な人がいる中で、どのような共通の言葉を使い、どのようなまとめをしていくのか、ということを考える時期にきていると思います。私はとりあえずビジョンだけは共有したいと思っています。次回の最初の1時間くらいはその議論をして、その後、予定の議論に入っていきたいと思います。その他の細かな議論については、皆さんにお任せします。

●：(司会 リーダー)

本日は時間もなくなってきましたので、さらに議論を深めることはできません。最初に皆さんにお配りしたスケジュールでは、今日の討議の内容から見て、無理があってできません。先ほど申したような形で修正するというので良いでしょうか。

宿題としてはビジョンのほうに目を向け、認識をもってもらい、次回にある程度、共通の方向性を出せればと思っています。その後の分科会で、レポートの不足項目の検討を2回に集約するかどうか、不足項目を限定するならどのように限定するのか、あるいは個人的に活動していただく課題の意見をどうするかという話し合いに、次回は充てたいと思います。

●：

隣に座った委員の方と認識を共有しましたので発言させていただきます。

事務局がつくってくださった「中間発表会レポートでの不足項目」や区民委員の発言がありました。学校選択制の問題で中学校を訪問するのであれば、是非、別のグループですが声をかけていただきたいと思います。やはり、もっと認識を同じにしていけないと思います。ですから、そのような活動を分科会以外にどんどん組んでいただければと思うのです。理念はもちろん素晴らしいけれど、区の現状としてどうなっていて、どこが不足しているのかということが分からないと、私たちのレポートも充実してこないと思います。「Ⅳ 子育て・教育をめぐる環境」の中で不足としている4項目（「中間発表会レポートでの不足項目」参照）について、現在どのように対応されているのかレクチャーを受けたいと思いました。「これなら私が説明できますよ」というのがあったら、次回でも

説明していただきたいと思います。やはり課題を常に持って臨み、期限の中でどんどん動かないといけないと思います。

● :

学校訪問では、私は校長先生と2~3時間は話をしています。そういうことに付き合っ、徹底的に議論できる方でしたら是非一緒してください。

● :

確認なのですが、何人かの委員と情報を共有していて「子どもの権利」とか「子どもの参画」について話していきたいと思っています。先ほどの話にもありましたが、そのような委員たちと有志で集まって、話し合いを始めてしまってよいのでしょうか。

● : (司会 リーダー)

それは結構です。時間もありませんし、どんどんやっていただきたいです。

● :

それについて質問なのですが、例えば外国人の親についてや働き方の見直しについて、今度、このようなことを始めたいとなった時に、今までは事務局をお願いをしてファックスだ、なんだとやっていただいたのですが、今回はどのようにすれば良いですか。

○ : (菊地)

基本的には、皆さんのやりやすい方法で結構です。なぜ、今まで事務局を通していたかという、委員の皆さんは、他の委員の電話番号や住所が分からない等があったからです。しかし、皆さんがお互いに教えあうということであれば、それは事務局を通さなくても結構です。

● :

オープンにして、活動しないとけないということですね。

● : (司会 リーダー)

決して「許可をとらない」ということではないと思います。行く時、行った後に事務局に報告していただければ、後は、分科会の場で報告していただければ結構です。

○ : (菊地)

例えば、こっちで外国人ことをやっていて、実はもう一方でも同じことをやっている場合など、重複しているテーマを皆さんにお知らせしていくのは事務局でやりますので、構いません。また、事務局に報告があったことは分科会で皆さんにお知らせします。

● : (司会 リーダー)

また、興味はあるが、宛がないというときも事務局を通じて探してもらうことも可能ですね。

○ : (菊地)

「こんなことをやっています」という情報だけ報告いただければ、また「こんなことやりたいのだけれど」という際に、情報をお伝えすることができます。

● : (司会 リーダー)

今日参加の区民委員からお知らせがあります。

● :

3月22日にショートステイの協力家庭の登録研修があります。それを地域子育て支援センター「ふたば」で、ショートステイされるお子さんの基礎知識のようなものを行います。ショートステイ協力家庭の登録研修なのですが、もし、関心があって、聞いてみたいという方がいらっしゃったら、声をかけてください。

それから4月27日に筆筈町区民ホールで、子育て支援セミナーがあります。汐見委員のお話もあります。新宿区のショートステイをやっている方の話ですとか、二葉乳児院からは、子どもと親子の話をするのですが、そこでは、かなり追い詰められたお母さんたちがどんな思いで子どもたちを預けているのかという話が聞けますので、興味のある方は私にお声かけ下さい。

● :

先ほどの軽度発達障がいについて、テーマとして情報を出すのであれば、うちは逆にそうではない情報を出せますので、両方出してほしいです。なぜなら、そのようにラベリングすることが問題だということがありますので、もし出すのなら両方を出してください。

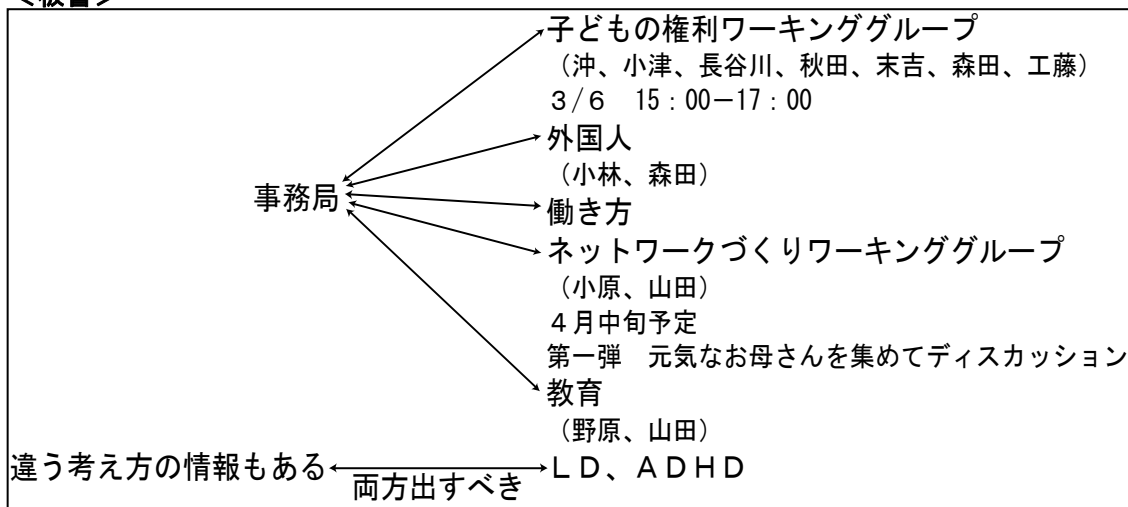
● :

ワーキンググループからは超越してしまうのですが、先ほどの委員のおっしゃられている「ネットワークの仕組み」について、委員の考えているものとはだいぶ違うのですが、新宿の子育て、子育て支援について考える人たちのネットワークをつくろうと考えています。4月から始動したいと温めているので、次回の会議に案内を配布いたします。

● :

先ほどの「子どもの権利ワーキンググループ」は、1回目の話し合いを3月6日15時から17時に区役所地下1階の「区民交流の場」で行いたいと思います。

<板書>



● : (司会 リーダー)

それでは最後に事務局から連絡事項をして、本日は終了にしたいと思います。

○：(並木)

お疲れ様でした。

次回は3月16日ですが、4月の予定も決まりました。(下記参照)

**第19回**

日時：平成18年3月16日(木)

午後6時30分から午後8時30分 予定 (夜間)

場所：区役所第一分庁舎 7階 研修室

**第20回**

日時：平成18年4月6日(木)

午後6時30分から午後8時30分 予定 (夜間)

場所：未定

**第21回**

日時：平成18年4月21日(金)

午後1時30分から午後3時30分 予定 (昼間)

場所：未定